

# 学習院大学身体表象文化学会 2021年度第1回例会 第9回ゾンビ映画研究会



日時：8月28日（土）

14時00分～16時00分

場所：Zoom



## 【対象作品】

- 『ランド・オブ・ザ・デッド（Land of the Dead）』  
(ジョージ・A・ロメロ監督、2005年、米／加／仏、93分)  
『アーミー・オブ・ザ・デッド（Army of the Dead）』  
(ザック・スナイダー監督、2021年、米、148分)



## 【概要】

今年5月、ザック・スナイダー監督の最新作『アーミー・オブ・ザ・デッド』がNetflixから配信開始された。この映画の「主人公」と呼ぶべきゾンビは、当研究会がこれまで検証してきた「ロメロ・ゾンビ」と比較するとき、全く逆の性格を有しているように見える。ロメロ・ゾンビは奴隸や労働者、消費者のメタファーとしてあった。これに対し、本作品では、スーパーマンならぬスーパー・ゾンビ（その名もゼウス）が登場し、王妃と共にラスベガスのカジノ（その名も「オリンポス」）に死者の王国を築き上げるのである。しかし、果たしてそれは、ゾンビにとって寿ぐべき出来事（主体化？）だったのだろうか。

この度のゾンビ映画研究会では、上記スナイダーのゾンビ映画第二作とロメロの後期ゾンビ映画第一作『ランド・オブ・ザ・デッド』（2005年）を取り上げ、比較することで、ゾンビ表象の潜在的可能性について考える手掛かりとしたい。

解説：岡田尚文

（学習院大学／慶應義塾大学非常勤講師、映画史・表象文化論）

「スナイダーVSロメロ、あるいはドラキュラVSフランケンシュタイン」

## 【申込方法】

参加を希望される方は、下記メールアドレスまでご連絡ください。折り返しZOOMのURLをご案内いたします。なお、なるべく作品を鑑賞のうえでご参加ください。

gusescvr1@gmail.com